

会 議 録

会 議 名	東松山市観光振興基本計画策定委員会					
開 催 日 時	令和7年1月29日（水）			開 会	14時00分	
				閉 会	16時00分	
開 催 場 所	東松山市役所総合会館4階多目的ホールB					
会 議 次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 （1）第三次東松山市観光振興基本計画策定に係る調査結果について （2）第三次東松山観光振興基本計画の方向性について （3）その他 4 閉 会					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数	0人		
非公開の理由 （非公開の場合）						
委員出欠状況	委員長	羽生 冬佳	出席	委 員	古川 由夏	出席
	副委員長	野瀬 元子	出席	委 員	村田 秀樹	出席
	委 員	新井 勝己	出席	委 員	横田 和則	出席
	委 員	荻原 直樹	出席	委 員	島野 僚子	出席
	委 員	知久 孝幸	出席			
事 務 局	環境産業部長 江口 功一			商工観光課副課長 小島 孝彦		
	環境産業部次長 加藤 充			商工観光課主事補 新井 雅士		
	商工観光課長 大久保 泰宏					
オブザーバー （委託業務受注者）	株式会社プランニングネットワーク 内藤					

次 第	顛 末
1 開 会	(事務局開会宣言)
2 あいさつ	<p>(羽生委員長あいさつ)</p> <p>(東松山市観光振興基本計画策定委員会条例第6条第1項の規定により、羽生委員長が議事進行)</p> <p>(知久委員と古川委員を署名委員に指名)</p>
<p>3 議 題</p> <p>(1) 第三次東松山市観光振興基本計画策定に係る調査結果について</p> <p>羽生委員長</p> <p>立教大学4年生</p> <p>荻原委員</p> <p>島野委員</p> <p>立教大学4年生</p>	<p>≪資料1-P15「⑧大学生ワークショップ<立教大学 概要>」に基づき事務局が説明≫</p> <p>(補足説明)</p> <p>(ワークショップについての成果発表)</p> <p><質疑応答・意見・感想></p> <p>サイクリングの提案について、こども動物自然公園周辺でもサイクリングをする人が多い。比企地域全体がサイクリングの聖地となっている。サイクリングは活かしきれていない部分であると思っていたので、そこに目を付けて提案してくれたことは感心する。</p> <p>市内に住んでいると感じられない新たな視点について非常に勉強になった。ウォーキングでは、市民としても課題を感じている。スリーデーマーチでは多くのウォーカーがいるが、普段歩いている方をあまり見かけないので、魅力を知りながら歩いたりするなど視点を持ちながら政策を考え、特に市民が参加する視点で良い提案だった。</p> <p>(退出)</p>

野瀬副委員長	<p>《資料１－P16「⑧大学生ワークショップ〈大東文化大学 概要〉」に基づき事務局が説明》</p> <p>(補足説明)</p>
事務局	<p>《資料１，２に基づき事務局が説明》</p>
横田委員	<p>＜質疑応答・意見＞</p> <p>調査結果から情報の発信が弱いことが指摘にあった。多くの方がSNSをキーワードとして挙げていた。これまでは、どこかを利用したり、食事をしたりするなど感想ベースのSNS発信が多かったが、これを受動的ではなく能動的な紹介による発信の固定化と口コミによる発信の２つのパターンを増やしていく。一方的に発信していくのではなく、相互で発信していくことで効果が出るのではないかと。ケーブルテレビも地元のメディアで、東松山市の観光地等の映像を撮影し、全国で使用しできるアーカイブに載せているが、使ってもらえるかは別の問題があると思われるので、ハードルの高いマスコミよりは、まずは身近なSNS等でやっていくほうが良いと感じた。</p>
羽生委員長	<p>SNSは今後大きな課題となっていく。今はSNSが悪い影響を及ぼすことも顕在化しているので、戦略的な使い方について、今後検討する余地は大いにあると思う。</p>
村田委員	<p>資料１の６ページでは「やきとり食べ歩き」とあるが、以前商工会がやきとり組合に話を伺ったところ、子どもに串が刺さる事故の懸念や、組合として客のターゲットを仕事終わりの方を対象としていることから、観光客をターゲットとした事業の実現には至らなかった。また、農協では東松山農産物直売所いなほてらすがオープンする際に、フードコート内へのやきとり店の出店を依頼したが、希望に添えない結果となった。</p>
事務局	<p>一部のやきとり事業者は、市内外のイベントへ出店して東松山市のやきとりをPRしていただいている。やきとりについては、引き続</p>

	<p>きイベントへの出店により周知を進めていきたい。</p>
野瀬副委員長	<p>誘致圏や資源毎の市民等の割合をそのままをどう増やしていくかを今後戦略的に考えるうえで共通認識できるデータであった。</p>
羽生委員長	<p>これだけ膨大なデータを集めていただいたので、横断的な分析も続けていただきたい。それにはクロス集計が必要である。特に資料2のとりまとめは、まずは全体を把握する上では非常に重要な結果となるのだが、今後何をやっていくかの施策につなげていくためには、細分化した形でターゲットを定める、或いは、こういうニーズにはこういう対応が必要だということを見極めていく必要があると思う。来訪者アンケート調査では、来訪者が市内で何箇所立ち寄っているのか。平均滞在箇所数のようなものがアンケート結果から分かると思う。また、市外も含めて周辺立ち寄り地点数の平均を見ると、実態としてははっきりすると思う。例えば、こども動物自然公園が一番の集客の要として、そちらに来られる30代、40代の方々と、その他の高齢者の来訪が多いようなところでは、どういった地点に立ち寄っているかというセグメントをかけた形でターゲット分析をもう少し丁寧にやっていく。満遍なくニーズを拾うのは無理なので、ここで絞って、どこを狙っていくかという議論を次の段階でやれたら良いなと思っている。せっかくとった貴重なデータなので引き続き活かしていけたらと思っている。</p>
横田委員	<p>データの収集において、来訪した観光施設等の情報をどのように知ったかについてのデータはあるのか。</p>
事務局	<p>来訪者アンケートについては、何で知ったかについての質問項目があるため把握しているが、観光マーケット調査ではその項目がないため把握できていない。</p>

<p>(2) 第三次東 松山市観光振興 基本計画の方向 性について</p>	<p>《資料3に基づき事務局が説明》</p>
<p>事務局</p>	<p>＜質疑応答・意見＞</p> <p>資料3の2ページでは、各種調査結果と観光関連団体等からの意見を基に課題を導き出しているが、大学生のワークショップでも同じような課題が出ている。庁内の関係各課で構成する検討委員会を先日開催したところ、大学生ワークショップの成果など若い方々の意見も施策や取組として計画に盛り込んだ方が良いという意見があったので、本日発表いただいた提言も含めて、計画に盛り込んでいきたいと考えている。</p>
<p>羽生委員長</p>	<p>例えば大東文化大学の学生のプランは、「観光資源を活かす」ところに入れるのか、それとも項目立てするのは検討が必要だと思う。また、うちの学生は情報の不備、整備の不備を挙げている。それらは課題として含まれているが、それを表に出すかとか。あるいは課題から導き出していく中で、もう少し丁寧に対策として挙げていくかなどが考え方としてあると思う。</p>
<p>村田委員</p>	<p>学生は個人店や小さなお店にはあまり行かないものなのか。チェーン店の方が安定しているから安心して良く利用していると聞いたことがある。</p>
<p>羽生委員長</p>	<p>チェーン店は、もはや彼らの SNS に挙げる題材にならない。今回発表の A 班は食べ物中心だったが、探してきたものが、とても歩いて行けないような丘の上のカフェやプラナスである。普段食べることができない、わざわざ行って珍しさがあるものに物凄く興味があるので、決して地元の小さなお店を避けるという事ではない。今日の報告ではなかったが、どうやってお店を探したのかというと Instagram とのことである。B 班はグーグルマップで立っている立ち寄りスポットのマークにおいて、書かれている評価で判断している。商工会や観光協会等が発信する媒体も見るが、何かを決定する</p>

	<p>場合は Instagram に入れて挙がってくるものを上から眺めたり、グーグルの出してくる情報を上から眺めている。その口コミの星印を見て判断するという行動が割と多い。チェーン店でも、身近にないローカルチェーン店には魅力があるようだ。</p>
野瀬副委員長	<p>学生とまち歩きをしている時に、飲食店ではないが、例えば、文房具店や本屋など、お客があまり行かないのではないかと個店を思いやる発言や、個店だからこそ入って買ってみたいという発言が学生からあった。まちを構成する様々な新旧の彩りあるものに対して、若者も響くものがある。若者の中でもセグメントをはっきりさせて届けるとそこが評判になっていく可能性がある。</p>
羽生委員長	<p>先程の補足で、A 班、B 班ともに食べた物に対して満足度は高かったようである。東松山市内で食べ物が美味しかった。それは味覚だけでなく、食べた場所、雰囲気、体験、全部含めて食に関しては満足していたようだ。</p>
村田委員	<p>商工会は側面からの支援として、お店の魅力アップや、どうやったら若い方に注目してもらえるかなど参考とさせていただいた。</p>
島野委員	<p>市民として、課題などは全体を通して確かにそうだと思う。その中で、課題5の「東松山市の顔となる駅前や商店街に活気がない」というのは、市民としての要望が高いと思う。駅前は観光の窓口としても重要だが、現実的に魅力ある駅前になれる可能性がどのくらいあるのかと市民は思っている。「市民のための観光」がキーワードとなるので、この計画にどの程度駅周辺を載せるかが課題と感じた。</p>
古川委員	<p>先程のコースを選定するのに、Instagram から行っているとの話があったが、Instagram のフォロワー数を見るのか。</p>
羽生委員長	<p>検索欄に東松山などキーワードを入れて出てくる順に見ている。また、Instagram では、勝手におすすめが表示されるので、それらも見ていると思う。</p>

野瀬副委員長	<p>参考資料の131ページに、学生自身が提案の中で入れたものがある。大学生の情報の調べ方に特化すると、無数のレビューが投稿されているInstagramを通して、その地の観光スポットを知り、プランを組むというのが通常の調べ方であるようだ。これを東松山市の観光資源に当てはめていくと、言葉だけ写真だけもあるが、Vlogという動画で挙げていくことを提案している。</p>
古川委員	<p>参考資料の131ページの一番下の円グラフの①に「人が映らない観光資源」とあるが、学生は人が映らないものが好きなのか。Instagramでは人が映っている光景をよく見るのだが、今は景色の方に惹かれるのか。</p>
野瀬副委員長	<p>風景や行った先の情報を見たいうえで、行きたいかどうかを判断しているようだ。そのため、人が楽しんでいるというより、土地の資源などを映し出すことが、どんな場所なのかを知ってもらうためには有効なのではないかという提案である。</p>
羽生委員長	<p>学生の経験則がどの世代まで当てはまるのかは難しいところで、恐らく今の大学生、20歳前後から下の世代は大体同じ行動かもしれないが、SNSもどんどん移っている。今の話はInstagramだが、画像ではなく動画となるなど情報発信のサイクルも早く移り変わっていくSNSの様々なツールを、どの世代に届けるためにどう使うかはかなり戦略性が必要である。他方で、色々な方々が色々な形で発信していくと何かにヒットするという戦略もある。SNSがありすぎて、最先端の人達ですら「当たるものを作ってください」と言われても作るのは難しいらしい。</p>
知久委員	<p>本日のA班の発表の中で、京急線「1日観光セット券」の事例があったが、東武鉄道でも川越の企画乗車券を販売している。例えば、池袋から川越までの往復鉄道乗車券と市内バス乗車券と市内の契約した数店舗で食べられる“ごはん券”、市内の契約した数店舗で利用できるカフェやお土産等の“おたのしみ券”がセットになった“川越れとろトリップきっぷ”をデジタル式で販売している。一方で、</p>

	<p>紙ベースでも“小江戸川越クーポン”も同時に販売しており、世代等によって使い分けしている。東松山市においても環境や条件が整えば企画乗車券等の企画開発は可能だろうと考える。大学生など若い方々の意見やアイデアを取り入れながら実施できるのを今後期待したい。駅前が閑散としている現状について、少しでも解決できれば良いなと思っている。</p>
羽生委員長	<p>先程の調査結果では、板橋区、練馬区からの来訪経験者はそれ程多くないが、比較的公共交通機関を利用している。横浜ではかなり来訪経験者は少ないが、さらに公共交通の度合いが増すので、先程提案のあった企画乗車券販売は可能性があると思う。川越では食べ歩きや食の魅力がブランドとしてあるので、東松山市でも農林公園の“いちご”など、遠方から足を運ぶというテーマと食の組合せは良い企画となると思う。うちの学生はどちらも“組合せ”の提案だった。今までの観光では単独で考えることが多かったが、組合せの妙と組合せをどうアピールしていくか、そして組合せをやすくしていくか、その時に公共交通機関は重要である。今は来街者の自家用車利用が8割を超えており、鉄道を利用していただけないので当然駅前はさびれる。観光で来るお客様は鉄道を利用し駅を使っただく。駅を利用する人が多くなると魅力的なお店も増えていくという好循環になれば駅前の活性化にも少し助けになる。駅前の問題は観光だけでは難しく、庁内の他部署や商工会など他の団体と協力しながらアイデアを練っていく段階において、観光をうまく使っていき発想として東武鉄道の企画乗車券販売は良い企画である。</p>
知久委員	<p>一つだけで遠方から集客するパワーやコンテンツがなかなかない中で、いくつかを組み合わせで引き付ける。川越でもセット券だからこそ、そこのお店に行けるという魅力を新たに作ってもらっている。組合せによって使っただけだと思うので、東松山市でも皆様と協力しながら一緒に作り上げていく必要があると思う。駅周辺ばかりに観光施設があるわけではないので、離れた観光施設を組み合わせることで、遠方から来ていただけるよう協力したい。</p>

